

稚アユ大きくなれ 日谷 一ツ瀬川漁協が放流

内所 都市力
西10

一ツ瀬川漁業協同組合(田中寛組合長)は6月30日、三財川上流や三納川支流など西都市内10カ所に約250キログラムの稚アユを放流した。県などからの受託も含めて毎年実施している取り組みで、

今年4月に続いでの放流。園児も作業を手伝い、バケツから水面に放たれた稚魚が勢いよく泳いでいった。

上三財の田農村広場近くでは上三財保育所の園児13人が作業を手伝い、約40キログラムを放流。田中組合長が子どもたちに「昔に比べると川で魚が捕れなくなっている。みんなも川を大切にしてほしい」と呼び掛け、漁協関係者が稚アユをトラックの水槽からバケツに移して手渡した。

バケツの中で勢いよく飛び跳ねる稚アユに子どもたちは

興味津々。川に放して元気よく泳いでいく姿に大喜びした。

一ツ瀬川は最近の大雨で濁っているため、7月中旬に約260キログラムを放流する予定。



稚アユを放流する上三財保育所の子どもたち